



## 念珠作り(員弁組仏教壮年会)

令和元年9月21日(土)夕方6時から藤原町東禅寺の明源寺(二十五日講)本堂をお借りして員弁組仏教壮年会連盟の主催で研修会を開催しました。

今年の研修会テーマは、『わたしのお念珠づくり』です。ご講師は東海教区海幡組教蓮寺の前住職小野正信さんにお世話になりました。参加者は36名でした。

6年前の小野先生の研修会と同様に、今回も参加者ひとりひとりの材料をきちんと数をそろえて事前に準備して下さって、それを並べるだけになっています。この日は、2種類の違うタイプのお念珠を作る用意がなされていました。

先生の説明の後、同伴の指導の方3名とそれぞれ各テーブルをまわりながら、作業のコツや難しい箇所を丁寧に教えてくださいました。

この日は3時間の研修でしたが、あっという間に時間が経過してしまい、完全にマスターするには少し時間不足の参加者もあったようです。

それでも何とか手作りのお念珠が出来上がって、みなさん満足された様子で、ご自身の手で作られたお念珠をきっと大切にされることでしょう。



六日講副組長 渡辺邦俊(松隆寺)

### 身近な法具 念珠(数珠) について

念珠は、主に仏前で礼拝(らいはい)するときに用いる法具です。

念珠の形状や使い方には、宗派により違いがありますが、浄土真宗本願寺派で用いる念珠の種類としては、108玉の2重の輪になる双輪念珠(ふたわねんじゅ)と1重の輪の単輪念珠(たんわねんじゅ)＝単念珠(たんねんじゅ)があります。

男女ともに単念珠が一般的で、珠の数や材質、房の形などに特に規定はありません。僧侶が法要や儀式に出勤する場合は、白黒珠・白切房の双輪念珠を用います。一般的には、煩惱を表わす108個の主珠、親珠2個、四天珠4個で構成され、片方の房が蓮如結びと呼ばれる結ばれ方をしているのに特徴があります。

浄土真宗では、読経や念仏の回数を数えるために使うものではありません。ただ両手にかけて礼拝するのが正式な使い方です。

合掌の時は必ず両手にかけ、組紐・房が下に垂れるようにし、親指で軽く押えます。合掌していない時は左手に持ち、房が下に垂れるようにします。中興の祖 蓮如上人は「念珠をせず合掌することは仏を驚掴みにするようなもの」と戒めておられます。参拝の際は、念珠を忘れないようにし、経本共々、畳に直接置かないように大切に扱きましょう。

念珠の珠はそのままではバラバラになってしましますが、中心の紐のおかげで綺麗に整列し、輪の形を保っています。その玉の1つを「自分自身」と見立てると、残りの玉は直接会う人、関わりのある人、会った事もないけれども縁のある人、これから会う人、などと言えるでしょう。そういう人々と自分とが、ともに1つのご縁の糸で繋がっているという念珠の形から、「自らも生かされて生きている」ということを学ぶことができるのではないのでしょうか。ご縁の糸を切る事は簡単ですが、切れた縁をもう一度綺麗につなぎ直すことは、大変難しい事です。念珠も人の縁も大切にしたいものです。



広報部 黒田昭真(唯照寺)

桑名の老舗  
仏壇・仏具・お洗濯

**福井屋**

白い象が目印

寺町本店 新西方店 明竜工場

代表 0594-22-3121

団体参拝から個人旅行まで 旅のご用命は  
観光庁長官登録旅行業第55号 (一社) 日本旅行業協会正会員

**名鉄観光サービス株式会社**  
四日市支店

四日市市諏訪町4番5号 住友生命四日市ビル1階  
電話 090-8673-4863 本願寺担当者: 佐藤 篤

墓石・石材工事一式

**石 慶**

大安町石樽南  
デンワモヤッパライシヤ  
☎78-0148  
(工場) ☎78-2039

